



叢梨地花沢瀉紋蒔絵半太刀拵 [写真]
沼田延道所用 (個人蔵)

江戸時代後期に一関藩家老職を勤めた沼田家の住宅です。創建は18世紀の初頭から中頃と推定され、約三百年の歴史を有していて、付近を流れる磐井川のたび重なる水害にも倒壊することなく今日に至りました。

沼田家は伊達政宗に仕えた長命を中興初代とし、2代重延が、政宗の曾孫で初代一関藩主となつた田村建顕とともに一関に移ってきました。石高は代々90石前後でしたが、文政5年(1822)に7代延雄、天保12年(1841)に8代延道が相次いで家老職となり、延道は役料とあわせ300石取りとなって明治を迎えました。

沼田家がこの屋敷に居住したのは、他家との屋敷替えによる寛保元年(1741)のことです。昭和に至るまで度々増築・改築を繰り返してきました。平成15年(2003)3月に全面解体による修復工事を終えたこの住宅は、家老職就任以前の創建当初に近い姿を復元したものです。

旧沼田家武家住宅 一関市田村町2-18 ☎0191-21-8188
●入場料 無料
●公開時間 午前9時～午後4時(4月～10月)・午前10時～午後3時(11月～3月)
●休日 11月～3月の毎週月曜日(月曜日が祝日の場合翌日) 年末年始

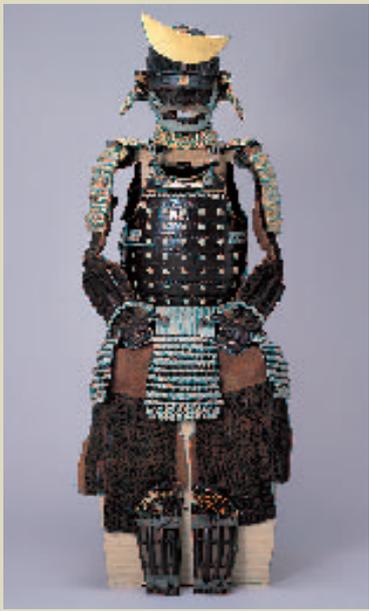
再生紙を使用しています。



旧沼田家武家住宅

【一関市指定文化財】





伊予札桶側菱綴胴具足【写真】
(個人蔵)

藩政時代の
くらしを知る



城下町
いちのせき



勅使御馳走日記 (個人蔵)



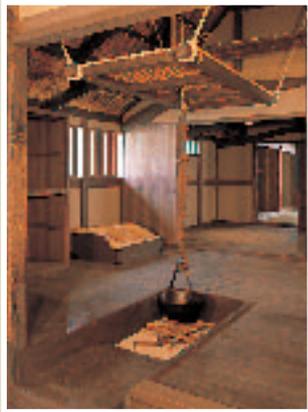
一関家中絵図【部分写真】
(一関市博物館蔵)

住宅は、表側となる道路により近い場所に台所、奥に座敷を置くなど、通常の武家住宅とは上下の関係が異なった珍しい間取りです。これは座敷の日当たりと関係があると思われます。また、土間も比較的広い所など農民住宅の様式を残しています。一方、正面に格式に応じた三ヶ所の出入口を持ち、裏側に設えた「部屋」の居室としての独立性、上座敷に書院飾りを施すなど武家住宅としての機能もあわせ持っています。農民住宅を素地としながらも次第に武家住宅として体裁を整えていく過程を示す、素朴ながら古式な遺構として貴重です。

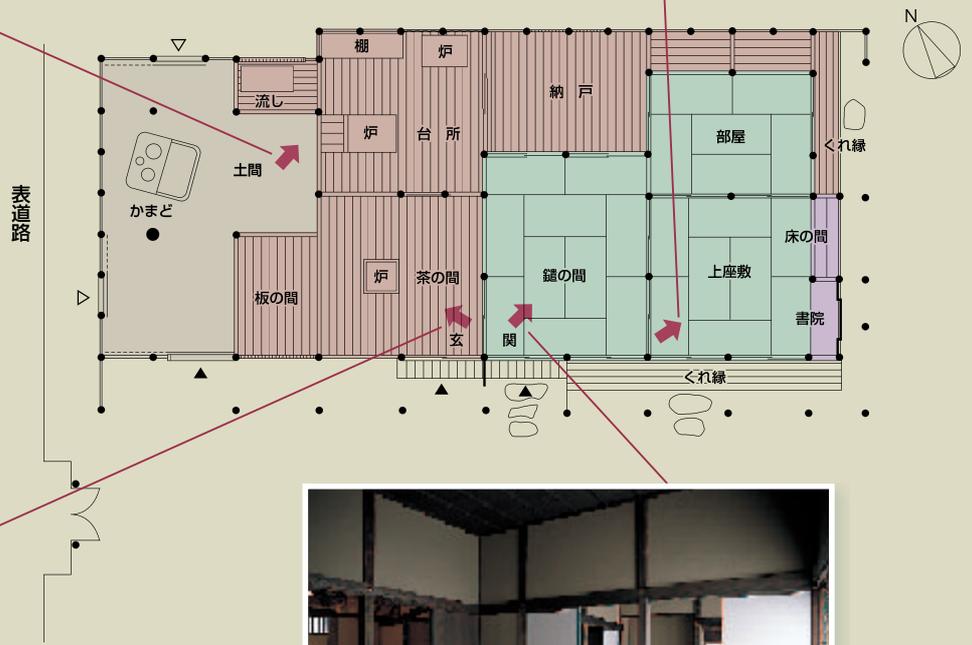


上座敷 (かみざしき)

台所 (だいどころ)



茶の間 (ちゃのま)



鐘の間 (やりのま)



- 構造形式 木造、平屋建、直家、石場建、寄棟造、茅葺、扱首構造
- 桁行 17.78メートル
- 梁間 (座敷) 8.89メートル
- (土間) 8.18メートル
- 床面積 125.95㎡ (38坪)